

八王子市「暮らしやすさ指数」の開発

A Study in Development of “Living Satisfaction Index” for Hachioji

明星大学経済学部経済学科 ワークショップ小林クラス
石松 千晴, 草野 雅, 普原 奈緒
指導教員 小林 健太郎

この研究は、地方自治体の「暮らしやすさ指数」を開発することを目的としたものである。暮らしやすさを比較的簡単な方法で指数化することができれば、都市計画を立てる際の基本的な情報として有益なものになるのではないかと考えたからである。ここでは八王子市の例を取り上げて指数の作成をおこなう。作成する指数は単純に暮らしやすさの指標を標準化したものを作成するが、暮らしやすさに関連する指標の選び方が一つの問題となる。この時、市区町村レベルでのデータは数が限られることや指数が主観的な評価になりうるという点が問題となった。

キーワード：暮らしやすさ、都市政策、幸福度指数、市区町村別データ、地図データ、都市政策

はじめに

本研究の目的は、地方自治体ごとの居住のしやすさについて検討し、それを指標化することによって、地方自治体の活性化や発展に資する政策を検討する材料を提供することである。特にこの研究においては、具体的な事例として八王子市を取り上げて、発展の要素となる項目を検討するものである。

問題意識

我々の問題意識の出発点は、八王子市をより発展させていくためにはどうすればよいだろうか？というものである。一口に八王子の「発展」といっても様々な状況が考えられる。例えば、人口や経済規模が拡大しているような状況や、この他にも街が賑やかであるとか、イベントが頻繁に催されている、あるいは、観光客で賑わうなどといったことも発展と呼べるだろう。ただし、ここではごく簡単にその街が「よりよい街」になっていると考えられる場合、それは「人が集まる街」であると考え、人口の増加を発展していることの一つの指標としてとらえて考えることにすることにした。

このような問題意識のもと、本研究では八王子市の人口の増減を把握することからはじめる。市区町村別の人団の増減は、出生数と死亡数の差である自然増減と転入と転出の差である社会増減の

合計であらわすことができる。

市区町村別の人団動態 = 自然増減 - 社会増減

= (出生数 - 死亡数) + (転入者数 - 転出者数)

実際に八王子市の人口の増減を全国や東京都と比較すると、全国の水準よりは、人口の減少は小さいものの東京都の水準よりは低いことがわかった。特に、2014年から2018年のデータを用いて確認すると八王子市は、2016年2017年の2カ年は微増ではあるが人口が増加していた。しかしながらその内訳をみると、自然増減率は一貫してマイナスである一方、社会増減率は2014年の値を除いては、全てプラスであったことが確認された。

	全国・東京都・八王子市の人口増減率の推移								
	増減率(%)			自然増減率(%)			社会増減率(%)		
	全国	東京都	八王子	全国	東京都	八王子	全国	東京都	八王子
2014	-0.19	0.54	-0.18	-0.18	0.00	-0.12	-0.01	0.54	-0.06
2015	-0.16	0.72	-0.16	-0.20	0.01	-0.20	0.04	0.71	0.04
2016	-0.12	0.89	0.04	-0.22	0.03	-0.17	0.09	0.86	0.21
2017	-0.12	0.86	0.08	-0.25	0.01	-0.23	0.12	0.85	0.31
2018	-0.16	0.79	-0.01	-0.30	-0.04	-0.33	0.14	0.83	0.32

出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査より作成

のことから、我々の研究においては、自然増減を決定する要素として、特に「子育てのしやすさ」、社会増減を決定する要素として子育てのしやすさも含む「暮らしやすさ」の2つの項目が重要であると考え、これらを基礎とした指数の開発を試みることとした。

指数の作成方法

私たちは普段の生活においてもいろいろな指標

あるいは指数を目にすることがある。受験生であれば偏差値は最も身近な指標の一つといえるだろうし、景気動向を表す指標や天気予報などを見れば洗濯指数や花粉症指数など変わったものまである。実際に住みやすさや暮らしやすさといった指標としては、メディアでもよく取り上げられる都道府県の幸福度ランキングがあるが、このようなランキングも、統計データなどを用いて適切な指標を作成し、ランク付けしたものである。

一般的には、行政単位が小さくなればなるほど、つまり都道府県よりもより小さな市区町村別の指標を考えようと思った場合、統計データを入手することは難しくなる。前出の都道府県別ランキング（2018年版）の中には中核市のランキングも掲載されているが、この中で八王子市は45位中19位という結果になっている。

幸福度・満足度のような指標は、適切な指標を選び、それらの指標を基準化するなどの方法により、単位を無名化して平均するという方法がとられることが多いようである。今回参考にする都道府県幸福度の指標も同様の方法により評価される。

今回我々が取り組む指標の作成は、ある都市（市区町村）における住みやすさ・暮らしやすさは、人口の増減率に反映されるはずであるという仮説に基づいている。今回参考にする47都道府県の幸福度ランキングでは、幸福度の指標の一つとして人口増減が既に指標計算の中に含まれている。

暮らしやすさに求める事

暮らしやすさに求める事	
交通の利便性	最寄り駅が複数ある 都心・周辺地域へのアクセスが良い（特急等の停車駅）
生活の利便性	病院が近い 飲食店が多い スーパー・コンビニなどが近い 商業施設が充実している 幼稚園や保育所などの選択肢が多い 銀行やATMなどが近くにある
経済的利便性	家賃・地価が相対的に安い 近くで働く場所がある
生活の安心	災害に強い 治安が良い、通学路が安全 夜暗すぎない 街が清潔である、住宅街が閑静

そこで本研究においては、暮らしやすさをキーワードに、暮らしやすい街を構成する要素を前表のような項目の中から検討することとした。これ

らをいくつかの要素に分けると、暮らしやすさに必要な要素としては、交通の利便性、生活の利便性、経済的利便性、生活の安心の4つの項目が浮かび上がった。

これらを用いて「暮らしやすさ指標（Living Satisfaction Index）」：LSIを次のように単純に指標化する。

$$LSI = \sum_{i=1}^n \omega_i x_i$$

ここで ω はウェイト、 x は各利便性や安心の指標である。また、この研究では、これらの要素を用いた地図上での特定の場所の暮らしやすさを指標化することも試みる。

結論

今回の研究では、ごく簡単な形で暮らしやすさ指標を定式化し、八王子市がどの程度暮らしやすい街であるかの相対的な評価をおこなった。ただし、この指標で得られた結果は、当然ウェイトの取り方によって、大きく変化するし、必ずしも客観性を保てるものではない。また、地図上での暮らしやすさの指標化には、立地の高低など、暮らしに重要な要素を含めきれなかったという点など改善の余地が多いものであるように感じられた。

これらの点については今後の課題としている。

参考文献

寺島実郎監修、（一財）日本総合研究所編『全47都道府県幸福度ランキング2018年版』、東洋経済新報社。

岡部光明、「幸福度等の国別世界順位について：各種指標の特徴と問題点」SFCディスカッションペーパー、2012年。

「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯調査」、総務省統計局。